

2026年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月11日

上場会社名 株式会社リンクバル 上場取引所 東  
 コード番号 6046 URL https://linkbal.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉弘 和正  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 財務経理部 部長 (氏名) 松岡 大輔 TEL 050(1741)2300  
 半期報告書提出予定日 2026年5月11日 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年10月1日～2026年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期中間期	493	11.6	0	—	2	—	1	—
2025年9月期中間期	442	△8.9	△62	—	△62	—	△64	—

(注) 包括利益 2026年9月期中間期 1百万円 (—%) 2025年9月期中間期 △64百万円 (—%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期中間期	0.10	—
2025年9月期中間期	△3.46	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期中間期	1,136	816	71.8
2025年9月期	1,120	810	72.3

(参考) 自己資本 2026年9月期中間期 816百万円 2025年9月期 810百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年9月期	—	0.00			
2026年9月期（予想）			—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年9月期の連結業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	971	7.2	2	—	2	—	1	—	0.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
  - ② ①以外の会計方針の変更：無
  - ③ 会計上の見積りの変更：無
  - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年9月期中間期	19,500,000株	2025年9月期	19,500,000株
② 期末自己株式数	2026年9月期中間期	729,096株	2025年9月期	758,506株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年9月期中間期	18,755,391株	2025年9月期中間期	18,733,540株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間連結貸借対照表 .....	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	5
中間連結損益計算書 .....	5
中間連結包括利益計算書 .....	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(重要な後発事象) .....	8
3. その他 .....	8
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	8

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国経済は、物価上昇の継続や世界情勢の不安定化等を背景として、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境の下、当社グループは、主要サービスである「machicon JAPAN」において自社企画イベントの拡大を中心とした成長施策を推進してまいりました。その結果、当該施策が順調に進捗し、売上高は前年同期比で増収となりました。費用面においては、「machicon JAPAN」の自社企画イベント拡大に伴う適切な投資を行いつつも、前期から継続してコスト効率化を推進し、売上原価ならびに販売費及び一般管理費の増加抑制に努めてまいりました。その結果、営業利益は前年同期比で増益となりました。また、当社は2026年4月1日付で、東京証券取引所のグロース市場からスタンダード市場へ市場区分を変更いたしました。これに伴い発生した審査費用および区分変更に係る各種費用については、販売費及び一般管理費に計上しておりますが、その性質上、一時的に発生した費用であり、翌期以降の継続的な発生は見込んでおりません。さらに、当社は当連結会計年度より株主優待制度を新たに導入しており、2026年3月末の中間基準日に係る費用について、株主優待引当金を計上しております。

なお、株主優待引当金に係る会計上の見積りが新たに生じております。当該見積りは、中間基準日時点における株主数、優待内容及び想定優待引換率に基づき、将来発生が見込まれる優待費用を合理的に見積ったものであります。

この結果、当中間連結会計期間についての売上高は493,958千円(前年同期比11.6%増)、売上原価、販売費及び一般管理費合計は493,094千円(前年同期比2.4%減)、営業利益は864千円(前年同期は営業損失62,907千円)、経常利益は2,536千円(前年同期は経常損失62,588千円)、親会社株主に帰属する中間純利益は1,857千円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失64,835千円)となりました。

なお、当社グループはインターネットサイト運営事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしておりません。サービスごとの取組みは以下のとおりであります。

当社グループは、主要サービスである「machicon JAPAN」「CoupLink」「1on1 for Singles」を中心としたマッチング領域の継続的な成長に加え、AIを中心とした技術力を活用したソリューション領域の拡大を図ることで、中長期的な収益機会の拡大に取り組んでおります。

この方針の下、当社グループの事業内容および成長ドライバーをより適切に示す観点から、当中間連結会計期間より、サービス別の区分を見直しました。従来は、「イベントECサイト運営サービス」および「WEBサイト運営サービス」の2区分としておりましたが、事業の実態および提供価値の変化を踏まえ、「イベントECサイト運営サービス」を「マッチングサービス」として再整理するとともに、「WEBサイト運営サービス」については、AIを中心とした技術活用による付加価値創出の側面を明確化するため、「AIソリューションサービス」へと区分名称を変更しております。また、従来「WEBサイト運営サービス」に含めていた一部のサービスについても、その機能および役割を踏まえ、「マッチングサービス」へ区分を見直しております。

なお、本区分変更は、当社グループの単一セグメントの考え方に影響を与えるものではありません。以下の前年同期比については、サービス別区分変更後の数値に組み替えて比較しております。

#### (マッチングサービス)

2026年3月末でリンクバルID会員数は291万人を突破し、当中間連結会計期間におけるマッチングサービスの売上高は431,148千円(前年同期比7.2%増)となりました。

「machicon JAPAN」の運営については、成長戦略として掲げるエコシステム戦略の起点となる自社企画イベントの展開を強化し、当中間連結会計期間において開催数および企画を拡大いたしました。これにより、新規顧客の獲得および顧客満足度の向上が進展し、当社グループの業績に寄与いたしました。

オンラインでの出会いを提供するマッチングアプリ「CoupLink」の運営については、カフェラウンジ「1on1 for Singles」とのサービス間の連携を継続することで利用者の増加および競合サービスとの差別化を図ってまいりました。また、引き続きAI技術の活用等により、なりすまし業者の排除を含む不正対策を推進し、利用者に安心・安全な利用環境を構築してまいりました。

1対1の出会いを提供するカフェラウンジ「1on1 for Singles」の運営においては、販売促進活動による新規利用者の獲得を図るとともに、接客の改善による利用体験の向上および来店時の利用時間の向上に努めました。あわせて、業務運用の効率化に伴う間接業務の削減、要員の適正配置推進による人件費の効率的運用等に取り組み、収益性の改善を進めてまいりました。

（AIソリューションサービス）

当中間連結会計期間におけるAIソリューションサービスの売上高は62,809千円（前年同期比55.1%増）となりました。

AIソリューションサービスにおいては、当社グループがこれまで培ってきたマッチング領域を中心としたデータ活用ノウハウおよび開発技術を基盤に、AIを中心とした技術力を活用したソリューション提供を推進しております。

当該領域では、既存事業での知見を活かした開発案件の獲得や、顧客課題に応じた柔軟な技術支援を通じて、収益機会の拡大を図っております。

また、AI技術の社会実装ニーズの高まりを背景に、同サービスは中長期的な成長余地が大きい領域であると認識しており、当社グループにおける第二の成長ドライバーとして位置付けております。今後も、技術力の強化および提供価値の高度化を通じて、安定的かつ持続的な業績拡大を目指してまいります。

## （2）当中間期の財政状態の概況

### ① 資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当中間連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ15,753千円増加し、1,136,611千円となりました。これは主に、前払費用が6,261千円減少した一方で、現金及び預金が17,118千円増加、売掛金が5,170千円増加したこと等によるものです。

（負債）

当中間連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ9,896千円増加し、320,514千円となりました。これは主に、預り金が9,099千円減少した一方で、未払金が12,040千円増加、1年内返済予定の長期借入金が9,996千円増加したこと等によるものです。

（純資産）

当中間連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ5,857千円増加し、816,096千円となりました。これは主に、資本剰余金が9,558千円減少した一方で、自己株式が13,558千円減少したこと等によるものです。

### ② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して17,118千円増加し、931,373千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において、営業活動により増加した資金は19,327千円（前年同期は100,482千円の支出）となりました。これは主に、未払金の増加が12,035千円、株主優待引当金の増加が9,986千円、預り金の減少が9,099千円となったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において、投資活動により減少した資金は546千円（前年同期は31,594千円の支出）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出が529千円となったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間において、財務活動により減少した資金は1,662千円（前年同期は1,662千円の支出）となりました。これは、長期借入金の返済による支出が1,662千円となったことによるものであります。

### （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点の業績予想につきましては、2025年11月7日に公表した通期連結業績予想から変更はありません。

なお、上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	914,254	931,373
売掛金	138,552	143,722
前払費用	20,795	14,533
その他	4,649	2,722
貸倒引当金	△649	△303
流動資産合計	1,077,603	1,092,050
固定資産		
有形固定資産	429	843
投資その他の資産		
破産更生債権等	1,386	957
その他	42,824	43,717
貸倒引当金	△1,386	△957
投資その他の資産合計	42,824	43,717
固定資産合計	43,254	44,561
資産合計	1,120,857	1,136,611
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,030	2,477
1年内返済予定の長期借入金	9,988	19,984
未払金	68,952	80,992
未払法人税等	970	685
未払消費税等	7,232	13,454
前受金	16,362	15,205
預り金	40,800	31,701
賞与引当金	12,350	9,924
株主優待引当金	-	9,986
その他	14,546	12,518
流動負債合計	174,233	196,930
固定負債		
長期借入金	99,209	87,551
資産除去債務	21,652	21,709
繰延税金負債	23	23
長期預り保証金	15,500	14,300
固定負債合計	136,384	123,584
負債合計	310,618	320,514
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	494,750	485,192
利益剰余金	615,792	617,650
自己株式	△350,306	△336,748
株主資本合計	810,236	816,093
新株予約権	3	3
純資産合計	810,239	816,096
負債純資産合計	1,120,857	1,136,611

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
売上高	442,496	493,958
売上原価	101,935	123,832
売上総利益	340,560	370,126
販売費及び一般管理費	403,468	369,261
営業利益又は営業損失 (△)	△62,907	864
営業外収益		
受取利息	568	1,122
貸倒引当金戻入額	92	351
助成金収入	-	510
その他	63	231
営業外収益合計	724	2,214
営業外費用		
支払利息	404	402
その他	-	139
営業外費用合計	404	542
経常利益又は経常損失 (△)	△62,588	2,536
特別利益		
新株予約権戻入益	115	-
特別利益合計	115	-
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失 (△)	△62,472	2,536
法人税、住民税及び事業税	1,738	679
法人税等調整額	625	0
法人税等合計	2,363	679
中間純利益又は中間純損失 (△)	△64,835	1,857
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失 (△)	△64,835	1,857

## (中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
中間純利益又は中間純損失 (△)	△64,835	1,857
中間包括利益	△64,835	1,857
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△64,835	1,857



## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	△62,472	2,536
減価償却費	8,510	120
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△92	△774
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,568	△2,425
株主優待引当金の増減額(△は減少)	-	9,986
受取利息及び受取配当金	△568	△1,122
支払利息	404	402
助成金収入	-	△510
新株予約権戻入益	△115	-
売上債権の増減額(△は増加)	△28,175	△5,170
未収入金の増減額(△は増加)	△804	2,151
仕入債務の増減額(△は減少)	△593	△552
未払金の増減額(△は減少)	△5,175	12,035
未払消費税等の増減額(△は減少)	△17,160	6,221
前受金の増減額(△は減少)	△2,371	△1,156
預り金の増減額(△は減少)	8,022	△9,099
その他	3,204	5,847
小計	△98,956	18,490
利息及び配当金の受取額	568	1,122
助成金の受取額	-	510
利息の支払額	△404	△402
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△1,690	△392
営業活動によるキャッシュ・フロー	△100,482	19,327
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△26,557	△529
敷金の差入による支出	△5,037	△17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△31,594	△546
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△1,662	△1,662
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,662	△1,662
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△133,739	17,118
現金及び現金同等物の期首残高	1,072,498	914,254
現金及び現金同等物の中間期末残高	938,758	931,373

（4）中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（追加情報）

当社は当連結会計年度より株主優待制度を新設しており、当中間連結会計期間より株主優待引当金を計上しております。

当該引当金は、中間基準日時点の株主数、優待内容及び想定優待引換率に基づき見積っております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

当社は、インターネットサイト運営事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2021年9月期以降、営業損失、経常損失および親会社株主に帰属する当期純損失を連続して計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象又は状況が現在も存在しているものと認識しております。

しかしながら、財務面におきましては、当中間連結会計期間末において931,373千円の現金及び預金を保有しており、当中間連結会計期間末から翌12ヶ月間の資金繰りを考慮した結果、当面の事業資金を十分に確保しているものと判断しております。加えて、2025年9月期第4四半期連結会計期間において連結営業利益で黒字を達成し、当中間連結会計期間においても連結営業利益で黒字を達成していることから、足元の事業運営において収益性改善の進捗が見られております。

以上の状況を総合的に勘案した結果、当社グループにおいては、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。